

播種後の二葉展開葉からの

インターシードの活緑

1Kg×20 入り

近年、天候異変気味であり、対応に苦慮されているグリーンキーパーの皆様が増えてきています。

様々な対応方法がありますが、環境の変化に対応できる「新品種の種」をインターシードされる機会が増えていきます。

種子自体には、発芽までの栄養分は貯えられていますが、二葉期以降は、自力で展開葉を育成して行かなければなりません。

既存の芝草の陰で、「日光の照射量不足」
雨天、曇天の天候不順で、「光量不足」
「高温」あるいは「低温」で光合成がし難い
種子には、土壌の有機質肥料が効かない
種子に液肥を施用すると、芝草が軟弱徒長してしまう

また、新たな改造グリーンを造る場合も同様です。

播種された芝草の種子にとっても、二葉期は、最も大切な時期です。

この生育ステージは、人間の幼児教育と同じです。

まだ、自力で光合成による養分を充二分に賄えません。

芝草にとって、ここが一生で一番大切な活着のキーポイントなのです。

成分

リボ核酸・・・スタート時の促進
低分子アミノ酸・・・スタート時の活力
ミネラル成分・・・スタート時の微量元素
糖成分・・・スタート時の栄養

使用方法

1㎡当たり 0.5g～1g、水に溶かして使用。
使用ガイドを参考にして下さい。